

かながわユースフォーラム 2021

開催日時：2021年6月26日（土）

開催場所：オンライン開催

参加人数：162名（運営30名・運営協力9名・当日協力4名・当日参加119名）

担当教員：長浜洋二 非常勤講師

○テーマ

若者と歩く地域の未来

○解決したい地域課題

1. 地域内で起きている様々な問題を敏感に捉え、行動する若者が少ないという課題
2. 新型コロナウイルス蔓延による影響により、学生と地域の交流・連携が弱まっているという課題
3. 地域活動に関心はあるが、一方で参加する機会が少ない学生が多いという課題
4. 地域での活動に関して、若者の求める情報が足りていないという課題
5. 様々な地域での活動経験や、新しい出会いを求める若者が多いという課題

○事業の目的

本事業は、地域との交流が減った若者（ユース）を対象に、コロナ禍における地域の課題を探り、若者と地域の「希望」を見出すことを主な目的とする。

特徴は、学生を主体（若者による若者のため）の参画型交流事業である。

○事業の内容（予定 コロナ禍で変更あり）

「若者と歩く地域の未来」をテーマに5つのステップで実践していく。

Step 1 コロナ禍における地域と若者の課題を出し合う（4月/授業）

Step 2 地域を歩きながら課題を共有し合う（歩く・交流）（5月～6月/自主）

Step 3 コロナ禍でも若者ができる地域実践を探る（6月末～7月上旬/イベント）

Step 4 若者と地域の「希望」を見出す（同上）

Step 5 若者が地域でボランティア活動を始める（夏以降～）

○学生の参画メンバー

学生代表：高久李美（神大3年）、副代表：土屋孝太（神大3年）、3年：17名、2年：2名、4年：9名

○大人のアドバイザー

実行委員長：齊藤ゆか（神大教授）

全体ディレクター：長浜洋二（モジョコンサルティング合同会社代表） 他、多数。（敬称略）

○主催団体：かながわユースフォーラム実行委員会

○協力団体

社会福祉法人 神奈川区社会福祉協議会

片倉三枚地域ケアプラザ・六角橋地域ケアプラザ

三枚地区社会福祉協議会

六角橋商店街連合会

NPO 法人アクションポート横浜 ふれあいっこ三ツ沢

横浜市神奈川区役所

神奈川大学社会連携センター 資格教育課程

○タイムスケジュール

全大会 9：40～10：30

分科会 10：40～11：40

リフレクション 10：50～12：30



〈4年生からのサプライズ表彰式〉

掲載記事



タウンニュース神奈川版 2021年7月8日号

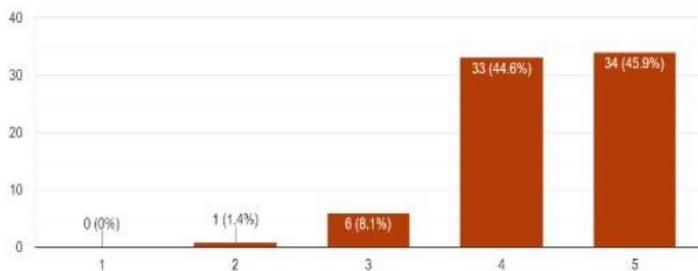


タウンニュース神奈川版 2021年7月1日号

アンケート結果

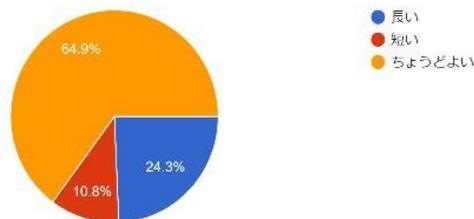
フォーラム全体の満足度について教えてください

74件の回答



フォーラム（約3時間）の時間設定はいかがでしたか？

74件の回答



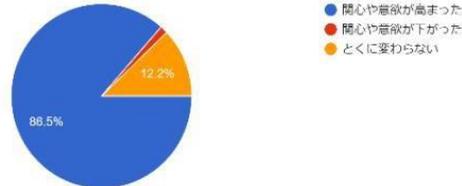
参加した「分科会」を教えてください

74件の回答



フォーラムに参加して、ボランティアに対する関心や、やってみようという意欲は高まりましたか？

74件の回答



【参加者の声】

- ・オンライン上ではあったが自分と同年の人と交流できたり、普段聞けないような話をたくさん聞くことができました！！
- ・コロナ禍でもたくさんの学生さんの意見や価値観を知ることができる場を作っていただいて、またそのおかげで自分も何かできることからやってみようという気持ちになれたので、今回このユースフォーラムに参加できたことをうれしく思います。
- ・とても有意義な時間を過ごせたと思います。緊張感無く取り組めるようにして下さって楽しく参加することができました。
- ・ゲストスピーカーの方が私自身とそこまで年齢も変わらないにもかかわらず、コロナ禍のなか、課題に追われながら、自らボランティアに参加していることに凄いなと感じました。また、私も自分から積極的に行動できる人になりたいと思いました。

【コラム】

地域づくりに求められる「ソーシャル・コーディネーター」



地域デザイン演習Ⅳ
(ユースフォーラム担当)
長浜 洋二

VUCA*の時代を迎え、今や社会は、単独の組織や個人ではなく多様な主体による協働でなければ解決できない課題であふれかえっています。新型コロナウイルス感染症にみるように、こうした課題は予測ができない、これまでの解決策が通用しない、問題の把握が難しい、関係者間で見解がずれる、利害対立が大きいといった特徴があり、合意をつくりながら解決に向かっていくことが非常に難しいというのが実態です。

*Volatility[変動性]、Uncertainty[不確実性]、Complexity[複雑性]、Ambiguity[曖昧性]

地域づくりにおいても、それが地域課題の解決であれ、新しい魅力の創出であれ、多様な主体による協働が求められています。協働の推進には「プレイヤー」とそれを支援する「サポーター」が必要ですが、プレイヤーは高齢者や障がい者、子どもなど、特定の受益者に対して直接サービスを提供する一方、サポーターは制度づくりから組織運営ノウハウの提供まで、プレイヤーを様々なかたちで支援する役割を負っています。地域では行政や社会福祉協議会、市民活動支援センター、大学のボランティアセンターなどがこれに該当します。

「ソーシャル・コーディネーター (Social Coordinator)とは、主にサポーターの立場で活動する人や組織を指しますが、地域における人材や組織、物品や場所、お金から、産業、名産品、観光名所、自然、文化・歴史などまで幅広く社会資源を把握するとともに、必要に応じてそれらをつなぎ合わせたり、関係者間で発生する様々な利害調整を行いながら地域づくりを推進する役割が期待されています。

地域には、自治会・町内会などの地縁組織、NPO や市民団体などのテーマ型組織、福祉団体、教育機関、行政、企業、ソーシャルビジネス、メディアなどの多様なプレイヤーが既に存在していますが、現状、これらの主体が有機的につながっているとはいえません。実際には各主体がそれぞれの都合や立場から主張を行うにとどまり、既存のメンタルモデル（思い込みや暗黙

の前提) や従来の関係性を超えた取り組みに発展していくのは至難の業です。ソーシャル・コーディネーターはこうした状況を打開すべく、関係者同士の対話の場をファシリテートしながら、実態把握と共有、課題の構造分析、関係者の整理、目指すビジョンやゴールの設定、関係者間のコミュニケーションの維持・深化など、地域づくりにおける様々な協働事業の推進を支援していきます。

2年目となる「かながわユースフォーラム」は、子ども、高齢者、ジェンダー、祭り、商店街という5つの地域・社会課題の解決に向けて、社会資源の一つである学生と大学がどのように関わることができるかを模索するコーディネート機能を意図したイベントです。神奈川大学生を中心とした実行委員会は、3年生がプレイヤーを、4年生がサポーターの役割をそれぞれ担いましたが、1年ごとに違う役割を経験することでコーディネートを行う際に不可欠なプレイヤーの視点や想いを体験することができました。フォーラムが単なる若者による一過性のイベントではなく、その企画・実行をつうじて個人的な成長も遂げながら、ソーシャル・コーディネーターとしての資質を磨く場として今後さらにプログラムを改善していきたいと考えています。

